

事例7 ボランティアと連携した小笠原諸島の固有生態系を脅かす外来植物の駆除

(関東森林管理局 小笠原諸島森林生態系保全センター)



- ・東京都 小笠原村（おがさわらむら）父島（ちぢま） 旭山（あさひやま）国有林
- ・ボランティアと連携した外来植物の駆除作業の様子

小笠原諸島は、これまで一度も大陸と陸続きになったことがなく、固有の野生生物が多く生育・生息しています。関東森林管理局では、小笠原諸島の豊かな森林生態系を後世に引き継ぐため、森林生態系保護地域を設定し、厳格な保護・管理に取り組んでいます。一方で、小笠原諸島では、一部の地域でモクマオウ、アカギ、ギンネム等の外来植物が繁茂し、固有の森林生態系を脅かす存在となっているため、それらの駆除が課題となっています。

小笠原諸島森林生態系保全センターでは、平成17年度からボランティアと連携して外来植物の駆除に取り組んでいます。令和元年度には、島内住民のほか島外の高校生や大学生、一般市民など延べ約100名が参加し、モクマオウ等の外来植物の伐倒・駆除を行いました。学生や一般市民の方々の参加を得ることで、外来植物の駆除が促進されるとともに、島の内外に小笠原諸島の森林生態系の価値や外来植物の駆除を含む保全活動の重要性を普及することができました。

このような中、同センターでは、引き続き、世界自然遺産※に登録された小笠原諸島の森林生態系の保全に取り組むとともに、その価値などの情報発信にも努めることとしています。